

## G01 文学研究 —領域横断的なアプローチをめざして—

基礎教育センター・教授・岩野 佳英子  
kaeko@aitech.ac.jp

キーワード 現代フランス文学、表象文化、ジェンダー理論

概要

マルセル・プルースト（1871-1922）が、同時代の大衆芸術をどのように捉え、どのように小説『失われた時を求めて』に導入したのかを明らかにすることが、現在の研究の目的。とりわけオペレッタの原型を作った作曲家ジャック・オッフエンバック（1819-1880）を研究対象とする。この分野はプルースト研究の中で特に遅れているので、研究を進展させる必要がある。

19世紀終わりから20世紀初頭におけるパリのオッフエンバック受容についても、当時の新聞・雑誌の批評記事等を収集し、プルーストの小説執筆のプロセスや書簡等と合わせて総合的に分析する。学際的な広がりを持った規模の大きな研究を目指す。

近年のマルセル・プルースト研究においては、フランス国立図書館の電子テキストサイト Gallica において、Fonds Marcel Proust（マルセル・プルースト・コレクション）の一般公開作業がほぼ完了した。4冊の「カルネ」と呼ばれる創作手帳、75冊の「カイエ」（小説執筆のための原稿帳）、20冊の清書用原稿ノートをはじめ、タイプ原稿や校正刷りなどのファクシミリ版がウェブ上で閲覧できるようになった。このような貴重な資料を、今後、文学研究に大いに活用していきたい。

セールスポイント

1. 領域横断的なアプローチ
2. 資料の有効活用
3. 実証研究

企業等での活用例、今後の展望等

1. 他分野の研究との連携
2. 新たな文学研究の可能性をめざす
3. 電子テキスト等、新しい技術の有効利用

参考資料

1. 大阪大学記念論文集『Correspondance(コレスポンドンス)』朝日出版社（共著）2020年2月
2. 『「失われた時を求めて」と女性たち— サロン・芸術・セクシュアリティ—』彩流社（単著）2016年3月
3. 『フランスと日本 遠くて近い二つの国』早美出版社（共著）2015年3月